

近年の理学療法士養成数の急増により、ここ数年間で、それまでの 40 年間に誕生した理学療法士とほぼ同数の理学療法士が誕生する。これを粗製濫造、質の低下といった負の要因と捉える人もいれば、この高齢化の時代に理学療法士の世界は若いエネルギーが満ちあふれると肯定的に捉える人もいる。どちらも間違っていない。しかし職能自らが先を見据えて努力し、変化しなければ問題は解決できないし、利点を生かすこともできない。時は極めて切迫している。これをチャンスとして、理学療法士界が一層の発展をとげられるよう本特集は多くの示唆を提示している。

■座談会 大量養成時代に求められる教育のあり方

大量養成によって生じている様々な課題（学内教育、臨床実習、卒後教育）の現状を明らかにし、その解決に向けてどのような取り組みが考えられるのか、学校教育や卒後教育の場で実践されている様々な取り組みを紹介していただく。話し合いを通して、理学療法士界の展望を見据えながら、望ましい教育のあり方を考える。

■大量養成時代に求められる教育—私はこう考える

1. 部門管理者の立場から（岡本慎哉論文）
2. 専門理学療法士の立場から（齊藤秀之論文）
3. 養成施設の教員としての立場から（杉浦昌己論文）
4. 介護保険領域で働く立場から（山根一人論文）

臨床家、教員、実習指導者、起業家の立場から、大量養成時代における課題と、求められる教育のあり方について、それぞれの視点からメッセージをいただく。

■急増する新人理学療法士に対する理学療法士協会の取り組み（半田一登論文）

2006～2008 年度までの国家試験合格者は各年 6,000 名台であるが、2009 年からは加速度的に増加することが予測されている。そのような中で理学療法士の教育問題、研修体制、雇用問題などの難題が山積している。日本理学療法士協会では 2008 年度にこれらの課題を解決するために特別委員会を設置した。高度成長期に誕生し、希少価値として優遇されてきた時代に別れを告げ、自らの頭で考え、自らの足で立ち、自らの意思で行動できる組織への脱皮が望まれる。

とびらページの書道作品について

「夢」

解説：今年の夢は、何だろうか。とりあえず今の私には、健康を取り戻すこと。脳出血後、右片麻痺になって、はや満 2 年が過ぎてしまった。早く右手で字を書きたいな。